

皮膚科のトリビア

248

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会
から 令和6年11月16日ネモリズマブ誘発性水疱性
類天疱瘡

経過の長いアトピー性皮膚炎の60歳代女性。表在性播種性汗孔角化症の併発があるが、結節性痒疹はなし。痒みが難治なためネモリズマブ(NEM)を導入。初回投与32日後に紅斑と緊満性水疱が出現。抗BP180抗体が34.8 U/mLと上昇し、NEM関連薬剤性類天疱瘡(bullous pemphigoid: BP)と診断。プレドニゾロン(PSL) 10 mg/日を併用しNEMの2回目投与を行ったがBPの再燃はなし。PSL 3 mg/日の併用で3回目のNEM投与を行ったが、28日後にBP再燃。抗BP180抗体は5.2 U/mLだった。治療前の抗体価は不明だが、BPが潜在していてそれがNEMによって顕在化した可能性がある。

一言コメント

「発症機序はわかっていない。NEM治療を行った結節性痒疹での報告もあって、それはもともと結節状類天疱瘡だったのではないかと推測されている。湿疹主体のアトピー性皮膚炎でも同様のことがおこるとすれば、NEMの投与前には抗BP180抗体の計測をしておくのがよいだろう。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会
から 令和6年11月16日化膿性汗腺炎にアプレミラストが
有効

4症例で有効性を確認したという報告。その中にはアダリムマブで効果が限定的だった2症例も含まれる。3例で症状が寛解し有効、うち1例では内服継続中にもかかわらず症状が再燃した。

化膿性汗腺炎に対しては乾癬と同様、臨床的に抗TNF-α阻害薬や抗IL-17A/F阻害薬が治療薬として用いられている。PDE4阻害薬であるアプレミラストもTNF-α、IL-17などの炎症性サイトカインの産生を抑制することから、乾癬と同様に有効性が期待できる。

一言コメント

「薬理作用的には確かに有効性が期待できそうである。内服薬であるというメリットは大きい。今後の保険適用拡大に期待したい。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会
から 令和6年11月16日リンゴ生産者に生じたアルテルナ
リアによる深在性真菌症

リンゴ農家を営む70歳代男性。14年前から鼻梁部に角化性紅斑が生じ、深在性真菌症と診断されたが菌種の同定には至らず。12年前、リンゴの枝が刺さった顔の傷に一致して紅斑が出現。その後も何度か外傷などの誘因なく、手背に角化性紅斑が出

現. 最終的に真菌培養でアルテルナリアが検出された。アルテルナリアは一般的な土壌菌・植物病原菌で、リンゴの斑点落葉病や黒点病の原因となる。ただしヒトへの病原性は弱く、深在性皮膚真菌症も日和見感染症の1つと考えられている。

一言コメント

「農業従事者の職業性皮膚感染症としての報告は、ほかにスポロトリコーシス、皮膚ノカルジアがある。また、酪農業者には好獣性真菌である *Trichophyton verrucosum* による白癬もまれに経験される。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和6年11月16日

赤痢アメーバの肛門病変にはメトロニダゾール外用が有効かも

60歳代男性, HIV陰性, 肛門性交常習者. 消化器症状はなし. 半年前から肛門部に違和感あり. 肛門に易出血性の肉芽と辺縁がわずかに隆起する拇指頭大不整形の潰瘍が出現してきた. 生検にて赤血球を貪食したアメーバが滲出液中にみられ, 真皮上層にも少数のアメーバが確認され, 赤痢アメーバと診断. メトロニダゾール内服と外用で速やかに肉芽も縮小し潰瘍も上皮化した.

一言コメント

「メトロニダゾール外用が皮膚病変に有効だったかどうかはわからないが, 試みるべきだろう. これまで経験したことはないが, 肛門の妙な病変では考慮すべき疾患だと思った。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和6年11月16日

表皮内にring mitosisを認める薬疹

尿管癌多発転移がある70歳代男性と, 膀胱癌多発転移のある80歳代男性. いずれもエンホルツマブベドチン (EV) で治療中に体幹・四肢に紅斑が出現した. 皮膚生検では表皮内に核がリング状に見える異常な分裂像 (ring mitosis) が確認された.

ring mitosisはとくにタキサン系抗癌薬の作用の

ため, 細胞の有糸分裂が途中で止まるために生じる核の異常な凝集像で, 細胞毒性の指標となる病理組織学的所見である. 薬疹を生じた皮膚病変で認められることがあるので, 薬疹の原因薬剤の同定にも役立つ.

一言コメント

「EVは細胞表面のNectin-4に結合したあと細胞内に移行し, 蛋白質分解酵素により切断され細胞内に放出された微小管阻害薬の作用で糸分裂停止をおこす作用があるとのこと. 抗癌薬による薬疹は積極的に生検したほうがよさそうだ。」

●第88回日本皮膚科学会東京支部学術大会から 令和6年11月16日

慢性特発性蕁麻疹における抗TPO抗体

抗甲状腺ペルオキシダーゼ (TPO) 抗体が, 慢性特発性蕁麻疹 (chronic spontaneous urticaria : CSU) でどの程度認められるか検討した. 54例中9例 (16.6%) で陽性で, 陽性者は全例女性であった. 年齢の中央値は50歳で陰性群45例の中央値 (45歳) より高齢であった. 抗体価は16.7~660 IU/mLと幅があるが, 蕁麻疹の重症度や罹患期間とは関連なし. 陽性者にはバセドウ病1名, 橋本病1名が含まれるがほかの7名に甲状腺疾患は認めなかった.

一言コメント

「全例女性というのが興味深い. 抗TPO抗体陽性だと自己血清皮内反応が陽性になるのか知りたいと思った. いずれにしても難治性CSUでは, 末梢血中好塩基球数, 血清中総IgE値, 抗TPO抗体は, 今後は測定しておく必要がありそうだ。」